



あすか

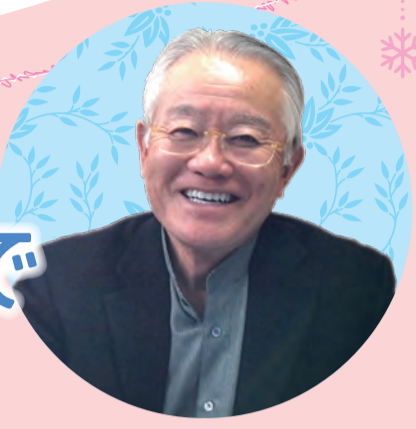
2019年冬号

新しい年が 希望に満ちた暦で ありますように

飛鳥晴山苑の特養に入所されている方の最高齢は101歳。2019年(平成31年)の春には新しい元号がスタートするそうですから、その方は大正時代を8年間、昭和の御世の63年間、平成を30年間、そして新しい元号へ。4代にわたる御世をご経験され、その間、無論、楽しいことばかりではなかったでしょうが、“未来へと長く、永く続いてゆくこと、すなわち、慶事”。大変にお幸せな方といえましょう。



平成の30年間、ご苦労様でした。そして、新年、おめでとうございます。新しい暦を迎える2019年はどんな年になりますでしょうか。世界には難問が渦巻いていますが、ご高齢の方を支える介護の世界は穏やかで、希望に満ちたものでなければなりません。ささやかではありますが、その一助となりますよう務めてまいります。



楽しみました!! Xmas



毎年恒例になっている間脇佑華さんと臼木麻祐子さんによる「ヴァイオリンとピアノのクリスマスコンサート」が12月19日に開かれました。なかなか聴く機会のない生演奏にご利用者様たちも大変感動されていました。また、翌20日には、「協和冷熱工業(株)」様からクリスマスケーキが贈られ、楽しく美味しいひとときを。12月の飛鳥晴山苑はXmasのイベントで連日大盛況でした。



デイスサービスドライバー (写真右から)
わたなべ・たつや **渡邊龍也さん**
もとじま・こうじ **本島孝司さん**
たなべ・けんじ **田辺憲司さん**
たかの・しんいちろう **高野伸一郎さん**

ご自宅と施設との送迎に欠かせない存在、ドライバーさん。ほとんどの方がリタイア後のお仕事として飛鳥晴山苑に協力してくださっている。「父が施設にお世話になりましたので、その恩返しという気持ちで務めさせてもらっています」(高野)。「長年タクシードライバーをしていたので運転に自信はありますが、また違った難しさがありますね」(本島)。“安全第一”を心がけているのは当たり前だが、高齢者を乗せているという意識は、思った以上に気を遣い、緊張する運転になると、みなさん口をそろえる。「最初は時間に追われて戸惑いましたが、今は無事安全に送り届けると安堵感というか、ホッと、やりがい

を感じますね」(田辺)。そんな送迎の合間に交わす、ご利用者との会話に、楽しさを感じることも多いらしい。「年齢も近いし、なかなかためになることも多いんですよ」(渡邊)。
送迎のドライバーは、ご利用者と最初に接するスタッフ。第一印象が悪くは、デイスサービスの印象も悪くなりかねない。そんなことにも気を遣いながらハンドルを握っている。「はじめてデイスサービスにいらっしやったときは、緊張されていたご利用者さんが、何週間かたって、別人のようににこやかにお話しをされたりすると、良かったなあと感じますね」(渡邊)。今日も安全・安心を心がけて、車を走らせる4人だ。

嗅覚の衰えは認知症のはじまり?

ケア豆知識・23

認知症の初期症状といえば、もの忘れや家事・運転のミス、怒りっぽくなるなどが知られていますが、最近「嗅覚の変化」もその一つと考えられるようになってきました。
アルツハイマー型認知症は、脳の中の記憶を司る海馬という部分が萎縮することにより記憶障害が起きるのですが、その前に、鼻の奥にある嗅神経の細胞がダメージを受け、においを感じなくなるのがわかってきたのです。最近では、

においの認識により認知症を早期発見する検査方法の開発なども進められているそうです。早い段階で対策をすれば、嗅神経を回復させ、認知機能も改善させることも可能かもしれません。
ですから高齢になったら、自分でも、また周囲の家族も嗅覚の変化に早めに気づくようにしたいもの。また、嗅覚を鍛えることは認知症の予防にもなりますから、日頃から身の回りのにおいを意識して嗅ぐようにすることも大切です。散歩を

しながら季節の花の香りを楽しんだり、食事の時に「甘い香り」などと頭の中で言葉にしながらにおいを感じるようにしましょう。においはイキイとした暮らしに不可欠。いつまでも大切にしたいものです。

